

経営発達支援計画の概要

実施者名 (法人番号)	能美市商工会 (法人番号 3220005004351) 能美市 (地方公共団体コード 172111)
実施期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日
目標	<p>経営発達支援事業の目標</p> <p>(1) 小規模事業者の事業計画策定支援とフォローアップ</p> <p>(2) 小規模事業者の販路開拓支援</p> <p>(3) 関係支援機関との連携による創業・新産業創出</p> <p>(4) 人材育成によるものづくり産業発展</p> <p>(5) 伝統産業の振興と地域資源の活用</p>
事業内容	<p>経営発達支援事業の内容</p> <p>3-1. 地域の経済動向調査に関すること 地域の経済動向分析を行うために「RESAS」(地域経済分析システム)の活用や管内の景気動向調査を行う。</p> <p>3-2. 需要動向調査に関すること 地域の特産品や伝統工芸品を活かした新商品について市場調査の実施や首都圏での展示により調査・分析を行う。</p> <p>4. 経営動向の分析に関すること 販路開拓に意欲的な事業者に対し、定量分析たる「財務分析」と定性分析たる「SWOT分析」の双方で支援する。</p> <p>5. 事業計画策定支援に関すること 事業計画策定セミナーを実施し、外部専門家とも連携しながら、計画策定を伴走型で支援する。</p> <p>6. 事業計画策定後の支援に関すること 計画的な巡回指導を行いながら計画と進捗状況のズレが生じている場合、計画の修正等行っていく。</p> <p>7. 新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること 北陸地区で開催される展示会や商談会に出展し、全国展開を目指している事業者を支援する。</p>
連絡先	<p>能美市商工会 経営支援課 〒923-1111 石川県能美市寺井町ヨ 47 番地 TEL:0761-58-4230 FAX:0761-57-3510 E-mail:nomi@shoko.or.jp</p> <p>能美市産業交流部 商工課 〒923-1198 石川県能美市寺井町タ 35 番地 TEL:0761-58-2254 FAX:0761-58-2266 E-mail:shoukou@city.nomi.lg.jp</p>

(別表1)

経営発達支援計画

経営発達支援事業の目標

1. 目標

(1) 地域の現状及び課題

①現状

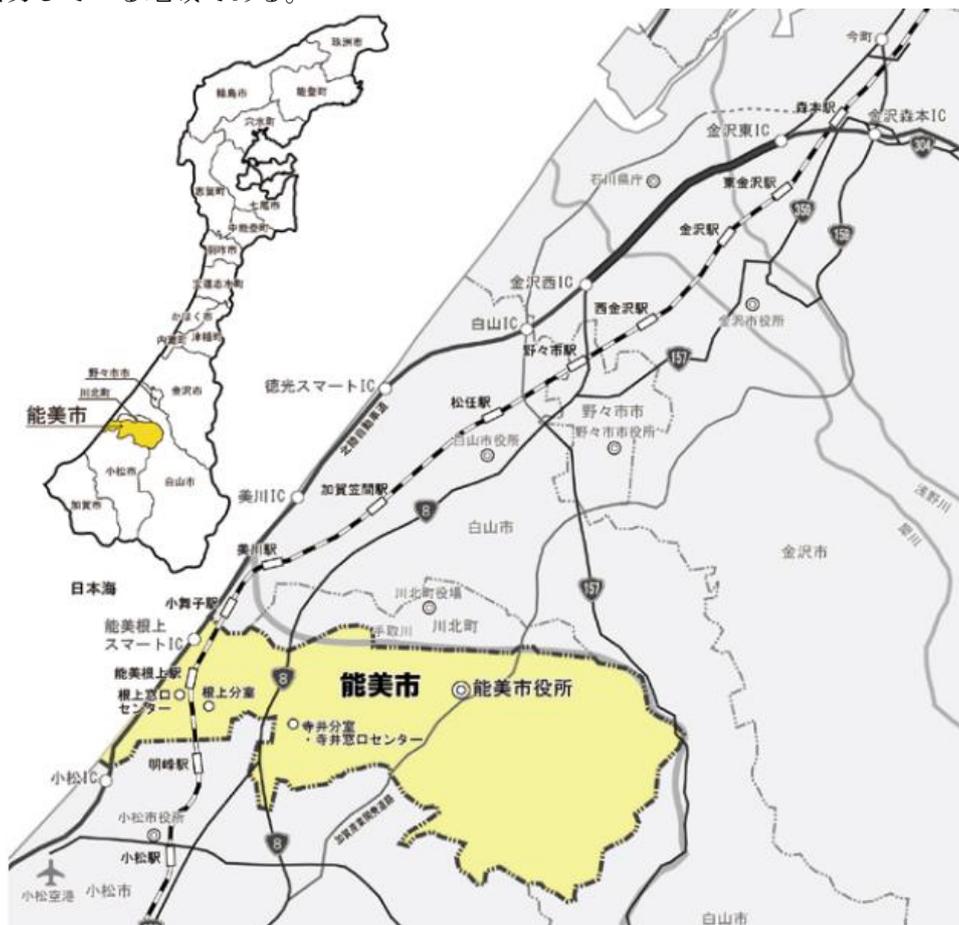
○立地

能美市は、石川県の南部、加賀平野のほぼ中央に位置し、金沢市から南西20kmの距離にあり、小松空港がある小松市が隣接している。

西部は日本海に面し、中央部は手取川に育まれた扇状地が広がっている。一方、東部は緑豊かな辰口丘陵を有し、北部は県下最大の手取川が広がっている。

年間平均気温14.3度、年間降水量は2167.5mm、日本海側特有の気候であるが、比較的温暖である。海岸部と内陸部では、気象条件に差があり、四季折々の自然美を見せてくれる。

また、少ない自然災害や、豊かな水源による工業用水の安定供給、平成30年3月に整備された能美根上スマートインターチェンジなど、交通アクセスにも優れていることなどから、大手企業の工場誘致にも成功している地域である。



少ない自然災害 リスク分散の適地：地震のBCP(事業継続計画)対策は万全ですか…

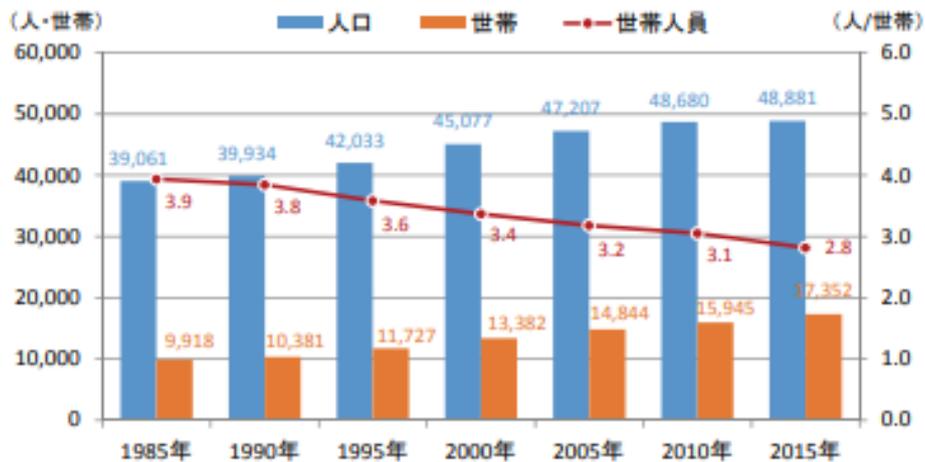
地震⇒能美地域の被害記録なし(関東大震災以降)

台風⇒能美地域の人的被害記録なし(昭和23年以降)

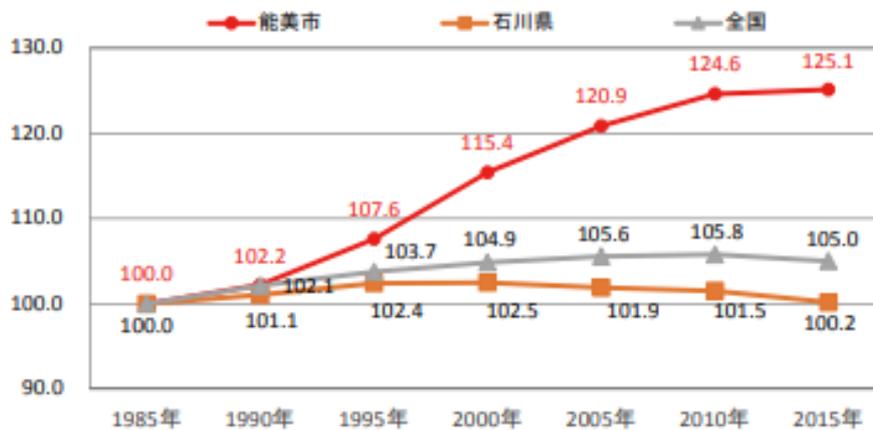
○人口

人口は令和2年10月時点で、49,908人、世帯数は19,267世帯を数える。金沢、小松の中間に位置し、交通アクセスが良いことから、各地で宅地開発が進められるなど、人口は増加傾向で推移している。階級別人口の割合は、年少人口13.8%、生産年齢人口60.4%、老年人口25.8%と、他の市町同様に少子・高齢化が進行しているが、若年層の転入などにより、県平均に比べてゆるやかに推移している。

▼能美市の人口・世帯数・世帯人員の推移



▼能美市・石川県・全国の人口変化率（1985年を100とする）



出典：総務省「国勢調査」

能美市において整備がなされた結果、東洋経済新報社「住みよさランキング」において、毎年上位にランクインし、全国的にも住みやすい街として注目を集めている。

年	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
能美市 順位	9位	3位	10位	9位	19位	8位	10位

○産業

能美市の産業構造の特徴として製造業の割合が多く、地域に根差した元気なものづくり企業がいくつも存在している。(グローバルニッチトップ企業100選に2社受賞、元気なモノ作り中小企業300社人口当たりの受賞企業数全国一位)

また、地元企業だけではなく、加賀東芝エレクトロニクス、東レ石川工場、日本ガイシ石川工場や近隣の小松市には産業機械、建設機械の大手の小松製作所等、大手企業の工場も多く立地しており、能美市内にはそれらを支える中小企業、小規模事業者が多数存在している。



グローバルニッチトップ企業100選 受賞企業数/日本一(2社受賞)
元気なモノ作り中小企業300社(2006~2009年 中小企業庁) 人口当たり受賞企業数/日本一(8社受賞)の
能美市でさらなる飛躍を実現しませんか。

能美市内の小規模事業者の業種別の割合をみると、工業関連の業種の合計は24.2% (繊維工業3.8%、機械工業6.6%、その他の工業13.8%の合計値)と最も高くなっており、「ものづくりのまち・能美」を表している。

また、小規模事業者数の推移については高齢化や後継者不足により10年前に比べ全体で23.9%減少する中、サービス業関連の創業等もあり、唯一、サービス業の事業者数は増加している。

なお、令和2年4月現在の小規模事業者は1,337で、商工業者数1,510の内、88.5%と大多数を占めている。

■ 能美市商工会管内の業種別小規模事業者数の10年間の推移 ■

	平成22年	平成27年	令和2年	22年→2年 増減率	令和2年 業種構成比
建設業	369	309	287	72.5%	21.5%
繊維工業	116	82	51	44.0%	3.8%
機械工業	124	109	88	70.1%	6.6%
その他の工業	247	214	185	74.9%	13.8%
卸売業	130	104	87	66.9%	6.5%
小売業・飲食店	430	359	305	70.9%	22.8%
サービス業	258	250	280	108.5%	20.9%
その他	83	72	54	65.1%	4.0%
合計	1,757	1,499	1,337	76.1%	100%

(出典：石川県商工会連合会「商工会の現況」)

②課題

○商業の振興

本市にはまとまった商業施設が少なく、近郊の大型商業施設に市民の消費支出が流出しており、市内の卸売業や小売業の事業所減少の要因の一つになっている。また、クルマ社会の進展やそれに伴う買い物行動の広域化・多様化を背景に、歩いて買い回ることができる身近な商店が相次いで廃業する中、近年の高齢化に伴う買い物弱者の増加が課題となっている。

○工業の振興

ものづくりの高度化、グローバル化が進む中、市内企業のさらなる生産性の向上や競争力の強化が求められるとともに、人口減少社会の到来や大手企業の立地により、人材獲得競争が激化し、中小企業を中心に人材不足感が高まり、人材確保が困難な状況となっている。

○産学金連携・創業支援

本市には北陸先端科学技術大学院大学があることから、能美市商工会では大学、自治体、金融機関と連携し産学官金意見交換交流会を毎年実施し、連携強化に努めている。市内企業では、大学のシーズに対する認知度が低いことに加え、大学との連携に対して敷居が高いという意識があり、市内産業のイノベーションを促進していくためには、さらなる産学官金連携に対する取組が必要である。

また、創業支援においては2016年1月に「能美市創業支援事業計画」の認定を受け、能美市商工会や金融機関との連携による創業サポートネットワークが構築され、創業支援の一体化を図るための取組が行われている。これらの創業支援体制を活かし、市内での事業意欲のある創業者を継続的に輩出・支援していくことが必要である。

▼北陸先端科学技術大学院大学



【創業塾】



○伝統産業の振興

本市は日本を代表するやきものである九谷焼の産地である。その九谷焼の売上は、平成2年の165億円から平成27年には48億円まで減少しており、既存販路での売上増、新規販路の開拓などのほか、産地として後継者不足の解消が長年の課題となっている。また、九谷焼の各組合員の減少も著しく、石川県立九谷焼技術研修所との連携などによる人材確保に向けた取組が喫緊の課題となっている。

【石川県立九谷焼技術研修所】



【九谷陶芸村まつり】



(2) 小規模事業者に対する長期的な振興のあり方

① 10年程度の期間を見据えて

10年後の能美市の商工業者は大型店舗やドラッグストア、大手コンビニチェーン店、フランチャイズ店等の出店の増加により、飲食、小売、サービス業においてはこれまで以上に売上、収益の減少

など厳しい経営環境を強いられると想定する。

工業についても企業誘致により、大手企業の工場進出が進むとともに、人材不足等からも、より一層の生産性向上、IoT化が求められ、技術革新や高度なものづくりのためにも工業団地内の企業同士の連携が重要となる。

また、伝統産業である九谷焼業では若手職人の育成や、新たな販路開拓、商品開発が課題となり、小規模事業者の持続、発展のためにも、引き続き各事業者に寄り添った伴走型の支援が不可欠となってくる。

②能美市総合計画との連動性・整合性

第2次能美市総合計画において産業・雇用分野においては「基盤産業と地域産業がともに躍動する能美づくり」をテーマに掲げ、本市の基盤産業である、繊維工業をはじめとする製造業をより一層充実するとともに、特色ある農林業の振興や九谷焼などの伝統産業の強化、創業支援、産学官金の連携、ワークライフバランスなどの労働環境の向上、買い物などの商業環境の充実を図り、地域内経済循環や新たな雇用の創出、若者にとっての魅力向上を目指すとしている。

そのため、①農業・農村の振興、②林業・山村の振興、③商業の振興、④工業の振興、⑤産学官金連携・創業支援の推進、⑥九谷の里づくり、⑦労働環境の充実といった項目ごとに施策を展開しており、なかでも、特に商工会とも関連性が高い項目については以下の通りとなっている。

●商業の振興

- ①地域特性を活かした商業振興策の展開
- ②経営改善や後継者・人材育成に関する支援
- ③能美市ならではの新たな商業の魅力づくり

●工業の振興

- ①地場産業の支援
- ②工業基盤の整備
- ③企業の誘致・既存企業の留置の推進

●産学官金連携・創業支援の推進

- ①産学官金連携の推進
- ②創業支援の推進

●九谷の里づくり

- ①経営の安定化と後継者の育成
- ②九谷陶芸村を核とした魅力づくり
- ③九谷焼の魅力の啓発・継承

●労働環境の充実

- ①雇用機会の充実
- ②働きやすい地域の企業風土づくり
- ③市内で働く人への支援
- ④障がいのある人や高齢者などの雇用促進

これらの中でも、経営改善や後継者・人材育成に関する支援、地場産業の支援、産学官金連携の推進、経営の安定化と後継者の育成等については、当会の経営発達支援計画との連動性・整合性が取れており、また、当会では、現在、能美市商工課と毎月1回程度の定例会議を開催し、会議を通じて各種施策の情報交換や実施状況報告、各種事業のすり合わせを行い、能美市とともに小規模事業者の持続的な発展に資する伴走型支援体制の整備に取り組んでいる。

③能美市商工会としての役割

能美市の地域総合経済団体である能美市商工会では、「商工会は行きます、聞きます、提案します」をスローガンに掲げ、小規模事業者の経営改善に取り組んできたが、小規模企業振興基本法や小規模支援法が施行されたことで、ますます地元の商工業者に対する支援や存在意義が求められるようになった。

能美市では、小規模事業者の減少や、事業主の高齢化や後継者不足といった課題を多く抱えていることから、本会では小規模事業者の支援体制を一層強化し、地域経済の活性化を推進していく必要がある、販路開拓、生産性向上、人材育成、創業支援等による小規模事業者の経営力向上を図っていく。そのためにも経営指導員等による伴走型支援が欠かせないことから、より専門的な知識や情報を得ながら、地域の支援機関としてのリーダー的な役割を果たしていく。

(3) 経営発達支援事業の目標

①小規模事業者の事業計画策定支援とフォローアップ

小規模事業者の経営状況や市場動向を分析しながら、事業計画の策定を支援し、フォローアップを実施することで、小規模事業者の経営力向上に努める。

②小規模事業者の販路開拓支援

事業計画を策定し、新商品・サービスの展開を目指す小規模事業者の市場調査や展示会等への出展等を支援し、小規模事業者の販路開拓を後押しする。

③関係支援機関との連携による創業・新産業創出

行政等と連携しながら、産学官金連携や能美市創業支援ネットワークを通じ、市内の小規模事業者の創業・新産業を創出する。

④人材育成によるものづくり産業発展

市内のものづくり産業の生産性の向上のため、AI・IoTの活用を図りながら、小規模事業者の人材育成を支援し、産業の発展に寄与する。

⑤伝統産業の振興と地域資源の活用

伝統産業である九谷焼や地域資源を生かした商品開発、地域ブランド開発に取り組んでいる小規模事業者の販路開拓を支援し、新たな事業展開を創造する。

経営発達支援事業の内容及び実施期間

2. 経営発達支援事業の実施期間、目標の達成方針

(1) 経営発達支援事業の実施期間（令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日）

(2) 目標の達成に向けた方針

①小規模事業者の事業計画策定支援とフォローアップ

小規模事業者の経営力向上のためには、事業計画の策定が重要であることから、事業者の現在の経営状況や市場動向などを分析し、生産性向上や販路開拓のための事業計画策定支援を行う。また、事業計画の進捗状況の確認や、その効果について定性的・定量的に把握するためのフォローアップを伴走型支援として行っていく。

②小規模事業者の販路開拓支援

事業計画を策定し、新商品・サービスの開発を実施・検討している小規模事業者を対象に開発中の新商品のテストマーケティングや市場調査を実施するとともに、大都市圏での展示会、商談会への参加・出展を支援する。

③関係支援機関との連携による創業・新産業創出

産学官金連携や能美市創業支援ネットワークを通じ、他の機関と連携しながら創業・新産業創出を支援する。

④人材育成によるものづくり産業発展

市内のものづくり産業のさらなる生産性の向上や競争力の強化が求められる中、人口減少社会の到来や大手企業の立地により、人材獲得競争が激化し、中小企業を中心に人材不足感が高まっている。そのため、AI・IoTの活用と併せ、人材育成のためのセミナー等を開催し、育成支援を図っていく。

⑤伝統産業の振興と地域資源の活用

市内には伝統産業である九谷焼や地域資源を生かした商品開発、地域ブランド開発に取り組んでいる事業者も多いため、それらの商品の販売機会の提供と販売促進を支援し、他社と差別化、売上増加、経営力向上を図るためのセミナーや個別相談会を実施する。

また、支援事業所の商品等を石川県アンテナショップ等のブースでの展示、テストマーケティング等を行う。

3-1. 地域の経済動向調査に関すること

(1) 現状と課題

[現状] 地域経済動向調査はこれまでの過去5年間は、大手調査会社に外部委託し実施。または、当会独自に管内の小規模事業者100事業所を対象に年1回行ってきた。

[課題] これまで実施してきた内容では、ビックデータの活用や専門的な分析ができていなかったため、改善した上で、実施する。

(2) 目標

	現行	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
①地域の経済動向分析の公表回数	—	1回	1回	1回	1回	1回
②景気動向分析の公表回数	1回	1回	1回	1回	1回	1回

(3) 事業内容

①国が提供するビックデータの活用

当地域において真に稼げる産業や事業者に対し、限られたマンパワーや政策資源を集中投下し、効率的な経済活性化を目指すため、経営指導員等が「RESAS」(地域経済分析システム)を活用した地域経済動向分析を行い、年1回公表する。

【分析手法】・「地域経済循環マップ・生産分析」→何で稼いでいるか等を分析

・「まちづくりマップ・From-to分析」→人の動き等を分析

・「産業構造マップ」→産業の現状等を分析

⇒上記の分析を総合的に分析し、事業計画策定支援等に反映する。

②管内の景気動向等について、業種別に組織された各部会の役員に年1回調査を行う。

【調査対象】管内小規模事業者等100社(建設業、鉄工業、繊維業、工業、商業、サービス業、九谷焼業)

【調査項目】売上高、収益、資金繰り、経営課題、設備投資、事業承継 等

【調査手法】幹事会等で調査票を配布し、その場で記入、回収する。

【分析手法】経営指導員が外部専門家と連携し分析を行う。

(4) 成果の活用

○情報収集・調査・分析した結果はホームページに掲載し、広く管内事業者等に周知する。

○経営指導員が巡回訪問を行う際の参考資料とする。

3-2. 需要動向調査に関すること

(1) 現状と課題

[現状] 当会では需要動向調査については日経テレコン21のPOS情報など、各種情報媒体の活用や地域の関係機関（地域の金融機関、地域の士業者等）、専門機関（先端大等）と連携・協力することで、情報収集、分析を行うこととしてきたが、これまで相談実績がないため実施していない。

[課題] 今後は地域資源を活用した新商品に絞って、事業者へ周知、募集するなど、改善した上で、需要動向調査を実施する。

(2) 目標

	現行	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
① 新商品（特産品）開発の調査対象事業者数	0社	3社	3社	3社	5社	5社
① 新商品（伝統工芸品）開発の調査対象事業者数	0社	5社	5社	5社	7社	7社

(3) 事業内容

①能美市の特産品である「加賀丸いも」、「国造ゆず」などを生かした新商品を開発する事業者を対象に、商品の開発・改善のための市場調査を実施する。具体的には事業計画を策定し、新商品・サービスの開発を検討している事業者を対象に開発中の新商品について専門家に委託し、市場調査を実施し、調査結果を事業者へフィードバックすることで、新商品のブラッシュアップを行う。

【調査手段・手法】 販路開拓等の専門家に市場調査を委託する。

【調査・分析結果の活用】 調査・分析結果については経営指導員が専門家に同行し、当該事業者へ直接説明する形でフィードバックし、改善を重ねていく。

【調査項目】 ①味、②大きさ・量、③価格、④パッケージデザイン等

▼九谷焼



▼加賀丸いも



②九谷焼の新たな形を模索するため、これまでの伝統工芸にとらわれず、九谷焼の特徴である色絵を生かした住宅のインテリアや内装・外装材等の新商品を開発し、首都圏の常設展示場に出展し、来場者の感想や意見を参考にしながら、さらなる商品開発につなげる。

【調査方法・手法】首都圏の常設展示場に1年間出展し、店員が来場者の接客の中で頂いた意見をまとめる。

【調査・分析結果の活用】来場者からのコメントは毎月1回報告してもらい、当該事業者にフィードバックし、製品づくりに生かす。

【調査項目】①色、②形、③デザイン、④大きさ、⑤価格等

4. 経営状況の分析に関すること

(1) 現状と課題

[現状] 当会では税務・経理指導を行っている記帳指導先に対して、経営分析ソフト（会計ワークスの自己診断システム）を活用し、毎月1社の経営分析を行い、経営支援会議において職員同士で意見交換し、事業者にフィードバックしてきた。

[課題] これまで実施しているものの、高度・専門的な知識が不足しているため、外部専門家等と連携するなど、改善した上で、実施する。

また、巡回・窓口指導による経営分析が実施できていないため、各種補助金の相談等の機会に、経営分析を実施する。

(2) 目標

	現行	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
①記帳指導先に対する分析件数	12件	12件	12件	12件	12件	12件
②巡回・窓口指導による分析件数	—	16件	20件	20件	20件	20件

(3) 事業内容

①記帳指導先への経営分析は従来通りの方法で行い、巡回・窓口相談で、各種補助金の相談等の機会には、積極的に中小機構の「経営自己診断システム」や「経営計画つくるくん」を活用し、定量的・定性的に経営診断を行い、経営指導員が診断結果を事業者の説明し、改善ポイントについてアドバイスを行う。また、必要に応じて外部専門家と連携しながら経営計画を作成、指導していく。

②経営分析の内容

【対象者】 記帳指導先、巡回・窓口での相談者

【分析項目】 定量分析たる「財務分析」と定性分析たる「SWOT分析」の双方を行う。

《財務分析》収益性、効率性、安全性 等

《SWOT分析》強み、弱み、機会、脅威 等

【分析手法】 中小機構の「経営自己診断システム」、「経営計画つくるくん」等のソフトを活用しながら、経営指導員が分析を行う

(4) 分析結果の活用

○分析結果は、当該事業者へフィードバックし、必要に応じて外部専門家を派遣し、事業計画策定等に活用する。

○分析結果は、データベース化し、内部で共有を図るとともに、ディスカッションを通じて経営指導員のスキルアップに努める。

5. 事業計画策定支援に関すること

(1) 現状と課題

[現状]これまで、経営計画、事業計画、事業承継計画策定セミナーを毎年開催してきた。

[課題]これまで実施しているものの、計画策定の重要性が十分に理解されていない為か参加者少ない。

(2) 支援に対する考え方

小規模事業者に対し、事業計画策定の意義や重要性を単に説明するだけではセミナーの受講につながりにくいため、成功体験の事例を紹介するなど工夫し、4. で経営分析を行った事業者の5割程度/年の事業計画策定を目指す。

併せて、持続化補助金の申請を目指す事業者向けに、申請のタイミングに併せ実施し、また、青年部を中心とした若手後継者の研修会に組み込むなどし、事業計画の策定につなげていく。

(3) 目標

	現行	R 3 年度	R 4 年度	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度
事業計画策定件数	—	16件	16件	16件	16件	16件

(4) 事業内容

事業計画策定セミナーの開催

募集方法 チラシ、ホームページ、SNSでの告知

回数 3回シリーズで開催

カリキュラム 経営理念、外部環境、内部環境分析、自社のビジネスモデル、今後の目標ビジョン、行動計画 等

募集定員 15名程度

【支援対象】経営分析を行った事業者のうち、持続化補助金の申請を目指す事業者や青年部を中心とした若手後継者

【手段・手法】事業計画策定セミナーの受講者に対し、経営指導員等が伴走型で支援し、必要に応じて外部専門家を派遣し、計画の実現性を高める。

6. 事業計画策定後の実施支援に関すること

(1) 現状と課題

[現状] これまでは計画策定後のフォローアップができていなかったため、昨年度、過去5年間に事業計画策定を支援した事業者に対し、担当経営指導員が一斉にフォローアップを実施し、計画の実施状況、計画の評価について定性面、定量面にヒアリングし、今後のフォローアップの必要性を確認した。

[課題] これまでフォローアップについては各指導員の裁量に任せ、不定期に実施していたため、これらを改善した上で実施する。

(2) 支援に対する考え方

事業計画を策定した全ての事業者を対象にフォローアップを行うが、事業計画の進捗状況に応じて、訪問回数を増やし、支援する事業者と、自力で計画実行が可能な事業者を見極め、フォローアップの頻度を設定する。

(3) 目標

	現行	R 3 年度	R 4 年度	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度
フォローアップ対象事業者数	—	16社	16社	16社	16社	16社
頻度（延回数）	—	64回	64回	64回	64回	64回
売上増加事業者数	—	5社	6社	7社	8社	10社
利益率3%以上増加の事業者数	—	5社	6社	7社	8社	10社

(4) 事業内容

事業計画策定16社に対し四半期に一度、事業所を巡回し計画の進捗状況、課題等を確認し、問題解決にあたり、2年目以降は通常の巡回指導で対応し、必要に応じ計画の見直し等について助言する。また、計画と進捗状況にズレが生じている場合には外部専門家を派遣するなどし、計画の修正等行っていく。

7. 新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること

(1) 現状と課題

[現状] これまで、本会では能美市商工業展の実施、九谷焼業者による国内及び海外展示会への出展、市内の事業所の商品やサービスを掲載したガイドブック「マゴノテ」の発刊、商工会の無料ホームページ作成支援ツールを活用してのネット販売等を実施し、需要や販路の開拓を行ってきた。

[課題] これまでは事業を実施しているものの、単発的な事業であったり、事業者への事前・事後のフォローが不十分であったため、実効性があるように改善した上で実施する。

(2) 支援に対する考え方

商工会が自前で展示会を開催するのは困難であり、また商談やマッチングの効果も限定的であることから、今後は北陸地区で開催される既存の展示会や商談会への出展や参加を目指していくこととする。出展・参加にあたっては、経営指導員が事前・事後のフォローアップを十分に行うことで、商談の成功率を高めていく。

また当地区は「加賀丸いも」「国造ゆず」などの農産物の産地であるが、農業者の高齢化・減少より、作付面積が減少傾向にあるという実情を踏まえ、計画期間中は地域の農産物を使った加工品製造販売業者を重点的に支援する。

(3) 目標

	現行	R 3 年度	R 4 年度	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度
かなざわマッチング商談会参加事業者数	1 社	5 社	5 社	5 社	5 社	5 社
商談成立数	2 件	1 0 件	1 0 件	1 0 件	1 0 件	1 0 件
ふくいビジネス商談会参加事業者数	0 社	3 社	3 社	3 社	3 社	3 社
商談成立数	0 件	5 件	5 件	5 件	5 件	5 件

(4) 事業内容

① かなざわマッチング商談会参加事業 (BtoB)

金沢商工会議所主催、石川県商工会連合会他共催の「かなざわマッチング商談会」に、事前に商品のブラッシュアップを行った事業者を5社選定し参加させる。事後には、商談相手へのアプローチ支援など、実効性のある支援を継続的に行っていく。

② ふくいビジネス商談会参加事業 (BtoB)

福井県商工会議所連合会主催、石川県商工会連合会他共催の「ふくいビジネス商談会」に3社を選定し参加させる。本商談会では東京・関西・中部の会社への販路拡大のチャンスとなるため、特に全国展開を目指している企業を中心に参加を促していく。

8. 事業の評価及び見直しをするための仕組みに関すること

(1) 現状と課題

[現状] これまで経営発達支援計画評価委員会（能美市商工会正副会長の他、外部有識者として能美市商工課長、中小企業診断士）を設置し、毎年1回委員会を開催し、事業の評価、見直し等を行ってきた。

[課題] これまで評価委員会を実施しているものの、当初の定量的目標数値が過大で、実績値との乖離が生じているため、適正な数値目標を設定するよう改善し、実施する。

(2) 事業内容

- 当会正副会長会と併設して、能美市商工課長、法定経営指導員、外部有識者として中小企業診断士をメンバーとする「協議会」を毎年1回開催し、経営発達支援事業の推進状況について評価、見直しを行う。
- 当該協議会の評価結果は、役員会で報告した上で、事業の見直しを行うとともに、総代会で報告、承認を受け、本会のHP及び会報へ掲載（年1回）することで、地域の小規模事業者が常に関覧可能な状態とする。

9. 経営指導員等の資質向上等に関すること

(1) 現状と課題

[現状] これまで県連合会主催の経営指導員研修会等への参加や毎月1回開催する経営支援会議で個別企業への経営改善策等について、参加する職員がディスカッションし、支援ノウハウの共有や資質向上を図ってきた。

[課題] これまでは研修会で学んできた内容については報告書での回覧にとどまっており、他の経営指導員、一般職員へのフィードバックが弱いため、これを改善して実施する。

(2) 事業内容

① 外部講習会等の積極的活用

経営指導員及び一般職員の支援能力向上のため、県連合会が主催する経営指導員研修会等に参加し、受講後は経営支援会議において経営指導員を講師として他の職員に研修内容を説明することで、プレゼンテーション能力を高めるとともに、組織内で知識・ノウハウを共有する。

また、中小企業大学校が実施する研修にも参加し、マーケティング、売れる商品開発など売上増加のための経営手法の習得を図り、支援能力の向上を図る。

② 経営支援会議の開催

毎月1回開催している経営支援会議において個別企業への経営改善策等について、参加する職員がディスカッションするだけでなく、経営指導員が順番で講師を務め、受講した研修内容をもとに、経営支援ノウハウについて発表し、意見交換等を行うことで資質向上を図る。

③ データベース化

担当経営指導員等が基幹システム上に、支援中の小規模事業者の状況を適宜データ入力し、支援状況を職員全員が共有できるようにすることで、担当以外の職員も一定レベル以上の対応ができるようにする。

10. 他の支援機関との連携を通じた支援ノウハウ等の情報交換に関すること

(1) 現状と課題

[現状] これまで本商工会では毎年1回、2月に開催している「金融懇談会」において、能美市内の民間金融機関（北國銀行・北陸銀行・金沢信用金庫・はくさん信用金庫）の各金融機関支店長、行政の商工担当者、本商工会の経営指導員が、意見交換を行ってきた。

[課題] これまでは制度融資の取り扱い状況、最近の金融および経済情勢、各種施策、金融機関と商工会の連携強化等について、情報共有・意見交換を行ってきたが、支援能力の向上については情報交換には至っていない。

(2) 事業内容

①金融懇談会の開催（年1回）

これまでの内容を改め、制度融資の取り扱い状況、最近の金融および経済情勢、各種施策、金融機関と商工会の連携強化等以外に、各支援機関の支援ノウハウ、成果、課題等について情報を交換することで、支援能力の向上を図る。特に経営指導員が他の支援機関の職員の専門的知識（資金調達方法、経営分析の方法、販路開拓の方法、法律的な知識等）を学ぶとともに、小規模事業者に対する行政の施策等について協議する。

②能美山中川北広域3商工会連絡会議（年2回）

近隣の3商工会の連絡会議と企業視察研修を実施し、他の商工会の支援事例や地域での取り組み、保有する支援ノウハウ等についての情報交換を行う。

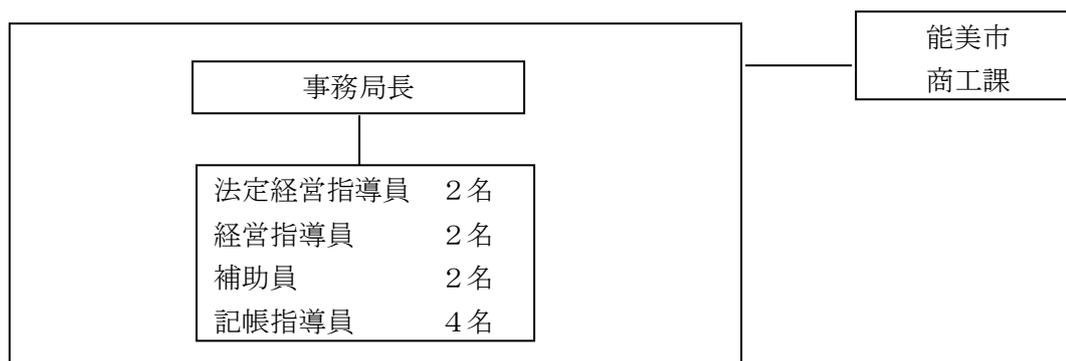
(別表2)

経営発達支援事業の実施体制

経営発達支援事業の実施体制

(令和2年11月現在)

(1) 実施体制(商工会又は商工会議所の経営発達支援事業実施に係る体制/関係市町村の経営発達支援事業実施に係る体制/商工会又は商工会議所と関係市町村の共同体制/経営指導員の関与体制等)



(2) 商工会及び商工会議所による小規模事業者の支援に関する法律第7条第5項に規定する経営指導員による情報の提供及び助言に係る実施体制

①当該経営指導員の氏名、連絡先

■氏名： 山下 貴広、山田 禎範

■連絡先： 能美市商工会 TEL:0761-58-4230

②当該経営指導員による情報の提供及び助言

経営発達支援事業の実施・実施に係る指導及び助言、目標達成に向けた進捗管理、事業の評価・見直しをする際の必要な情報の提供等を行う。

(3) 商工会/商工会議所、関係市町村連絡先

①商工会/商工会議所

〒923-1111

石川県能美市寺井町ヨ 47 番地

能美市商工会 経営支援課

TEL:0761-58-4230 / FAX: 0761-57-3510

E-mail: nomi@shoko.or.jp

②関係市町村

〒923-1198

石川県能美市寺井町タ 35 番地

能美市産業交流部 商工課

TEL: 0761-58-2254 / FAX: 0761-58-2266

E-mail: shoukou@city.nomi.lg.jp

(別表3)

経営発達支援事業の実施に必要な資金の額及びその調達方法

(単位 千円)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
必要な資金の額	1,500	1,500	1,500	1,600	1,600
○専門家派遣	750	750	750	850	850
○セミナー開催費	100	100	100	100	100
○チラシ作成費	50	50	50	50	50
○展示会等出展費	600	600	600	600	600

(備考) 必要な資金の額については、見込み額を記載すること。

調達方法
会費収入、能美市補助金、石川県補助金 等

(備考) 調達方法については、想定される調達方法を記載すること。

